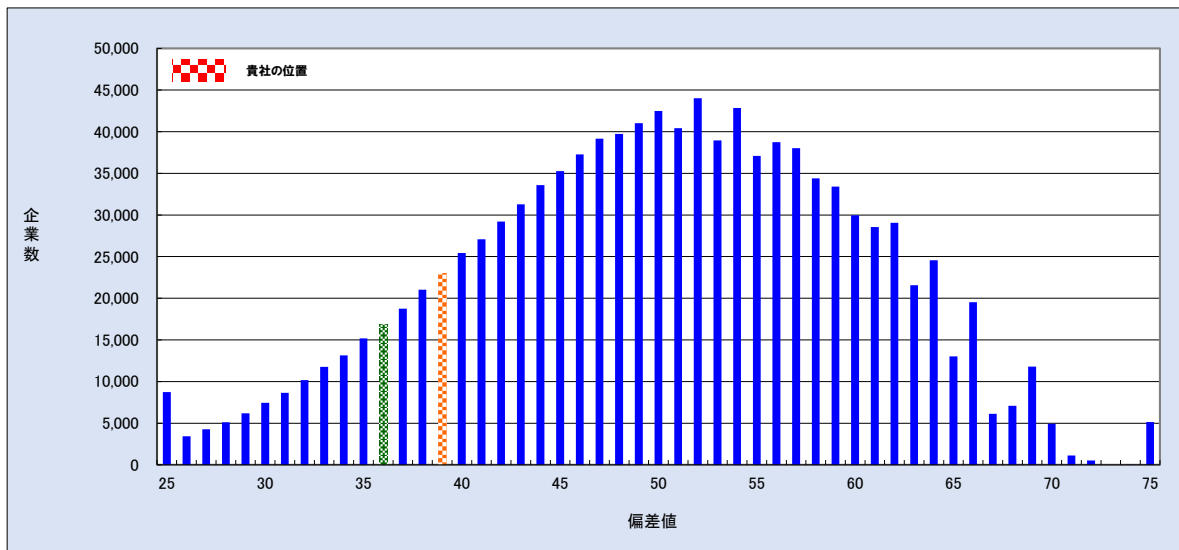


McSS 経営診断報告書

CRD法人2018年決算データ(2021年2月末時点)

【CRDモデルによる総合評価結果】

ここでは、貴社の決算書をCRDモデルで評価させていただき、全国の中小企業における貴社の信用力の相対的な位置づけをCRDランク(A~E)及び偏差値で表しています。偏差値は高いほど信用力が高いことを示しています。また順位は業種内・都道府県内・売上規模区分内での貴社の順位を示しています。



決算期	CRDランク (A~E)	貴社偏差値	デフォルト企業平均偏差値	金属製品製造業	広島県	同売上規模企業群での順位	
				企業群での順位	企業群での順位	売上規模区分	順位
2022/01期 (12ヶ月)	D	39	36	〇〇〇位 (〇〇〇社中)	〇〇〇位 (〇〇〇社中)	〇〇円超 〇〇円以下	〇〇〇位 (〇〇〇社中)
2021/01期 (12ヶ月)	C	46	36	〇〇〇位 (〇〇〇社中)	〇〇〇位 (〇〇〇社中)	〇〇円超 〇〇円以下	〇〇〇位 (〇〇〇社中)
2020/01期 (12ヶ月)	C	47	36	〇〇〇位 (〇〇〇社中)	〇〇〇位 (〇〇〇社中)	〇〇円超 〇〇円以下	〇〇〇位 (〇〇〇社中)

注)決算月数が12ヶ月以外の場合、12ヶ月換算したうえで売上規模区分を判断しています。

【CRDモデルでみた貴社の財務状況】

ここでは、貴社の当期の決算書について、中小企業の財務状況を表す代表的な10カテゴリー毎に、CRDモデルでみた財務面の強み・弱みを「○」「●」表示し、改善の余地があるカテゴリーについてはそのウェイト(寄与率)を表しています。ウェイト(寄与率)は、大きいほど財務面の弱みであることを示しており、経営改善に当たってはウェイトの大きいカテゴリーについて優先的に取り組むことをお勧めします。

評価のカテゴリー	代表的な財務指標名	財務面の強み・弱み (良好な場合は「○」、改善の余地がある場合は「●」)	財務面の弱みを評価した各カテゴリーのウェイト (寄与率)
資本の安定性	自己資本比率、純資産倍率 など	○	—
調達と運用の適合性	固定長期適合率、固定比率 など	○	—
成長性	前年比増収率、総資本増減率 など	○	—
売上高利益	売上高経常利益率、売上高総利益率 など	●	4.0%
回転率・回転期間	総資本回転率、売上債権回転日数 など	●	5.1%
短期支払能力	現預金比率、流動比率 など	●	6.7%
資産の健全性	減価償却率、売上高減価償却費率 など	●	10.8%
総合収益性	総資本経常利益率、総資本営業利益率 など	●	14.9%
債務償還能力	キャッシュフロー有利子負債比率、インタレストカバレッジレシオ など	●	21.1%
借入状況	借入金月商倍率、借入金依存度 など	●	37.4%
合計			100.0%

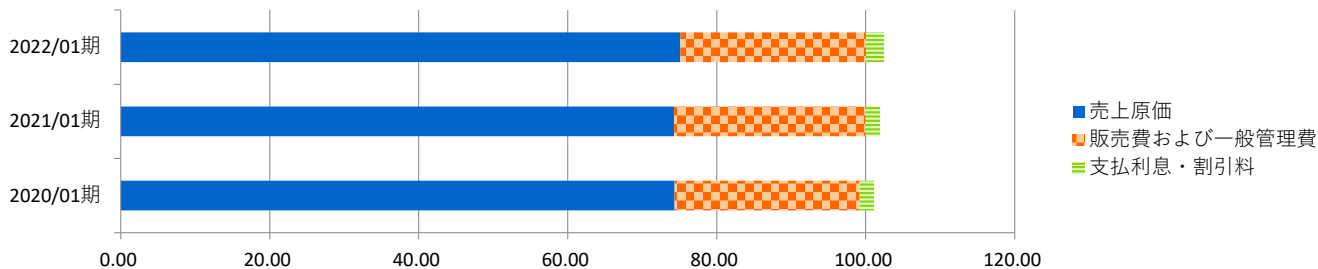
注)財務面の強み・弱みが「—」表示のカテゴリーは、業種特性により、CRDモデルの評価対象に含まれておりません。

McSS 経営診断報告書

CRD法人2018年決算データ(2021年2月末時点)

【経常費用分析】

本分析は、各決算期毎に、売上高を100とした場合に、それぞれの経常費用項目(売上原価、販売費および一般管理費、支払利息・割引料)が売上高に対してどの程度となっているか、構成比を算出し、3期分を時系列比較したものです。



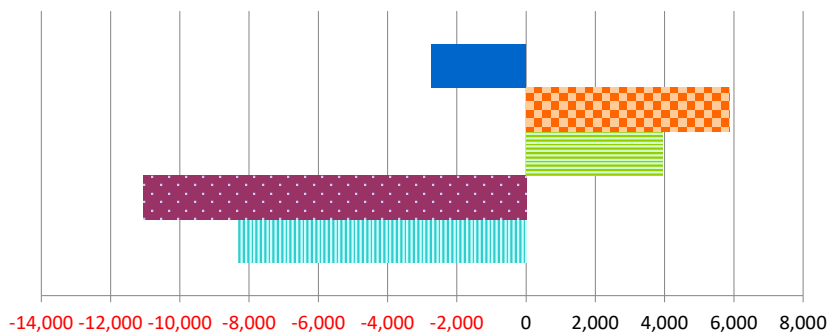
決算期	売上原価	販売費および一般管理費	支払利息・割引料	合計
2022/01期 (12ヶ月)	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
2021/01期 (12ヶ月)	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
2020/01期 (12ヶ月)	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
金属製品製造業 (同業種中央値)	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇

【キャッシュフロー分析】

本分析は、貴社の決算書をもとに、間接法によるキャッシュフローを計算し、グラフ表示したものです。

(単位: 千円)

①営業活動によるキャッシュフロー	〇〇〇
②投資活動によるキャッシュフロー	〇〇〇
③フリーキャッシュフロー(①+②)	〇〇〇
④財務活動によるキャッシュフロー	〇〇〇
⑤キャッシュフロー(③+④)	〇〇〇



【所要運転資金・債務償還年数分析】

本分析は、貴社の決算書をもとに、「所要運転資金」「債務償還年数」を算出し、貴社の借入状況に問題がないかを点検したものです。

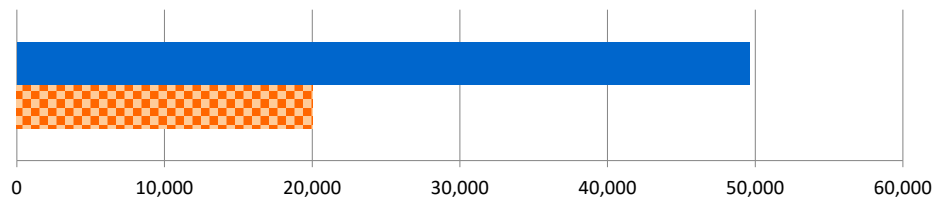
(1) 所要運転資金分析

所要運転資金 = (受取手形 + 売掛金 + 棚卸資産合計) - (支払手形 + 買掛金)

⇒ 短期借入金がこの金額内であれば適正です。

(単位: 千円)

①所要運転資金	〇〇〇
②短期借入金	〇〇〇
差額(①-②)	〇〇〇



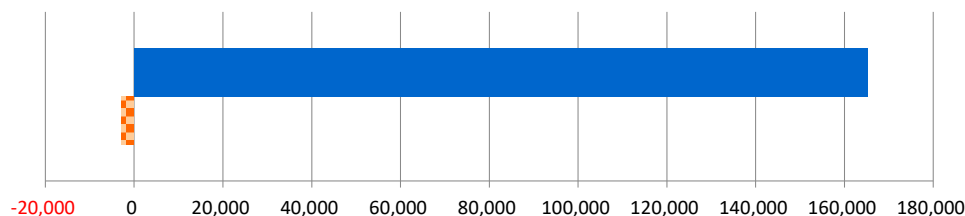
(2) 債務償還年数分析

債務償還年数 = 長短借入金合計(短期借入金 + 社債・長期借入金) ÷ 返済財源(税引後当期純利益 + 減価償却実施額)

⇒ 毎年の返済財源で借入金を完済するのに何年かかるかを表します。

(単位: 千円)

①長短借入金合計	〇〇〇
②返済財源	〇〇〇
債務償還年数(①÷②)	-



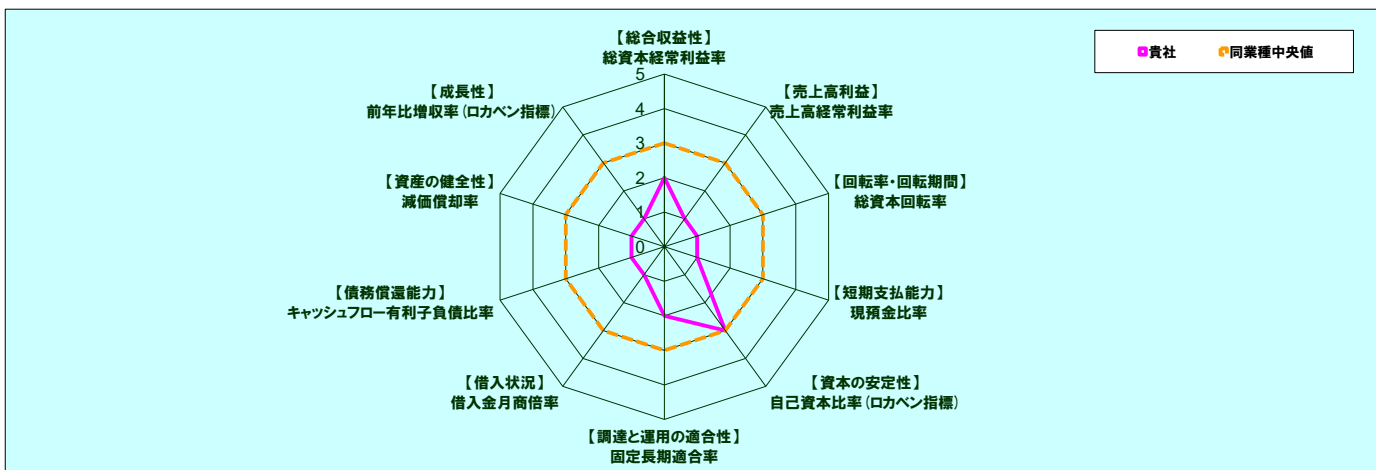
McSS 経営診断報告書

CRD法人2018年決算データ(2021年2月末時点)

【財務バランスチェック】

ここでは、中小企業の財務状況を表す代表的な10指標について、同業種における位置付けを、「中央値(標準的な姿)」との比較、及び「財務ランク(5~1:各群を5等分した区分)」との対応にてチェックしています。

業種: 金属製品製造業



診断結果		単位	計算式	2022/01期	同業種中央値	業界財務ランク(5~1)	評価コメント (業界財務ランクが2又は1の場合)
評価のカテゴリー	評価指標名						
①総合収益性	総資本経常利益率	%	経常利益÷総資本(総資産)×100	〇〇	3.55	! 2	資産全体を使って生み出す経常利益が、同業他社比やや過小です。売上原価や販管費の見直し、遊休資産等収益に直接寄与しない資産の処分を検討して下さい。
②売上高利益	売上高経常利益率	%	経常利益÷売上高×100	〇〇	3.12	!! 1	営業利益に、金融取引等本業以外の収支を加味した経常利益が、同業他社比かなり過小です。役員報酬の引下げによる販管費の削減や、借入金削減等による支払利息の削減を早急に検討して下さい。
③回転率・回転期間	総資本回転率	回	売上高÷総資本(総資産)	〇〇	1.18	!! 1	総資本(総資産)を投下・活用して獲得された売上高が、同業他社比かなり過小です。売上増加策の検討や、遊休資産の処分など総資本(総資産)の削減を早急に検討して下さい。
④短期支払能力	現預金比率	%	現金・預金÷売上高×100	〇〇	14.45	!! 1	売上規模に比べ保有している現預金残高が同業他社比かなり過小です。現金や流動性預金を確保することや運転資金の借入等資金繰り安定化を早急に検討して下さい。
⑤資本の安定性	自己資本比率(ロカベン指標)	%	資本合計(※)÷総資本(総資産)×100	〇〇	21.22	3	
⑥調達と運用の適合性	固定長期適合率	%	固定資産合計÷(資本合計(※)+固定負債合計+特別法上の準備金)×100	〇〇	63.14	! 2	自己資本と固定負債による調達に対し、投資している固定資産が同業他社比やや過多です。短期借入金の長期借入金への切替、遊休資産の処分など、調達と運用のバランス調整を検討して下さい。
⑦借入状況	借入金月商倍率	倍	(短期借入金+社債・長期借入金)÷(売上高÷12)	〇〇	5.36	!! 1	月商に比べ、借入金が同業他社比かなり過多です。借入金の削減を早急に検討して下さい。
⑧債務償還能力	キャッシュフロー有利子負債比率	%	(当期純利益+減価償却実施額)÷(短期借入金+社債・長期借入金+受取手形割引高)×100	〇〇	11.78	!! 1	借入金に対し、返済財源であるキャッシュフロー(当期純利益+減価償却実施額)が同業他社比かなり過小です。借入金の削減等を早急に検討して下さい。
⑨資産の健全性	減価償却率	%	減価償却実施額÷(有形固定資産合計-土地+減価償却実施額)×100	〇〇	18.03	!! 1	土地を除く有形固定資産に対し、減価償却実施額が同業他社比かなり過小です。適正な減価償却が実施されているか、実施できない理由は何かを早急に検討して下さい。
⑩成長性	前年比増収率(ロカベン指標)	%	(売上高(当期)÷売上高(前期)-1)×100	〇〇	5.29	!! 1	売上高の対前年伸び率が、同業他社比かなり低めです。販売価格の引上げ、より単価の高い商品へのシフト、販路の開拓等売上増加策を早急に検討して下さい。

注)決算月数が12ヶ月以外の場合、12ヶ月換算したうえで財務指標値を算出しています。